

令和7年 新年互礼会

令和7年1月4日(土) シティプラザ大阪 2階「旬の間」にて、
公益社団法人大阪府鍼灸師会 令和7年新年互礼会が
執り行われました。



CONTENTS

F1 令和7年 新年互礼会

F2 令和7年 新年互礼会
会長ご挨拶

F3 令和7年 新年互礼会
永年勤続表彰式

F4 令和6年度2月度学術講習会

F5 令和6年度
2月研修事業のご案内

F6 第44回霊枢勉強会報告

F7 第45回霊枢勉強会報告

F8 大事なお知らせ
公益社団法人大阪府鍼灸師会
主要行事予定表
【広告】求人募集

令和7年 新年互礼会

ご挨拶

(公社)大阪府鍼灸師会の新年互礼会にご参集頂きました皆様

新年あけましておめでとうございます。

本年は、乙巳（きのとみ）の年で、

「乙」は未だ発展途上の状態を表し、「巳」は植物が最大限まで成長した状態を意味します。

この組み合わせは、これまでの努力や準備が実を結び始める時期を示唆しているそうです。

因みに、今から1380年前の645年も、乙巳（きのとみ）の年で、

乙巳（いっし）の変（我々世代では、大化の改新と習いましたが）が、勃発しております。

弊会としましても、業界のV字回復に向けて、準備してきた事案が成就（じょうじゅ）するよう

柔軟に取り組んで参りたいと存じます。

どうぞ、本年も変わらぬご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

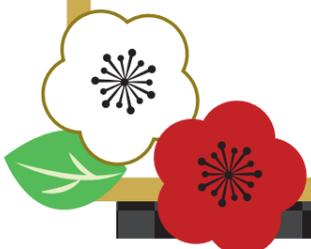
皆様と共に歩む新年が、幸多きものでありますように。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

公益社団法人 大阪府鍼灸師会

会長 堀口 正剛

※「乙」は十干の2番目で、「軋（きしむ）」を意味しています。陰陽五行説では木の陰のエネルギーを表し、植物が成長し広がっていくような意味合いです。柔軟性や協調性を象徴し、周囲との調和を保ちながら自身の目標に向かって進んでいく力を表しています。

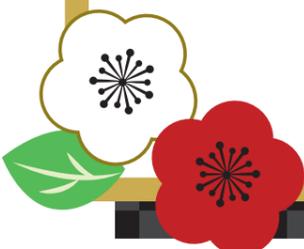


令和7年 新年互礼会



永年勤続表彰式

大阪府鍼灸師会在籍50年を迎えた会員のみなさまを称える永年勤続表彰式では、登壇された受賞者の翁祖耀先生（写真中央）と内田スミ子先生（写真右）に感謝状が贈られ、お二人はこれまでの思い出や感謝とともに挨拶を述べられました。



令和6年度
第5回(2月度)

学術講習会

2/9
日曜日

会場

大阪府鍼灸師会館3階 または WEB配信 (ZOOMミーティング)

ハイブリッド開催
(会館受講+WEB受講)

午前の部

午前 10:00～12:00

(アーカイブあり)

霊枢勉強会「平人絶穀」第三十二 講師 日本鍼灸研究会 代表 篠原孝市 先生

午後の部

学術講習会 (全日本鍼灸学会C口座)

テーマ1

午後 1:30～3:00

(アーカイブあり)

「医療機関における鍼灸師の役割と将来像について」

講師 小川 恵子 先生 (広島大学病院 漢方診療センター 教授)



テーマ2

午後 3:15～4:45

(アーカイブあり)

「鍼灸師の未来像となり得る電子カルテの活用法」

講師 伊藤 和憲 先生 (明治国際医療大学鍼灸学部 学部長)



1日の聴講料〈午前・午後を通して〉 事前申込みは必要です

■大阪府鍼灸師会会員：1,000円

(日本鍼灸師会会員、大阪府鍼灸マッサージ師会会員、
大阪府柔道整復師会会員、全日本鍼灸学会会員、学校協会教員も同じ)

■学生：無料 (WEB参加限定) ■会員外一般：2,000円

■開催方法 ハイブリッド開催 (会館受講+WEB受講)

■参加申込 事前申込制 (先着順)

会館受講 30名 WEB受講 300名

■申込方法 下記QRコード、大鍼会研修申込みサイト(manaable:
マナブル)にて1月15日より申込み開始 致します。

会場〈WEB配信会場〉

大阪府鍼灸師会館3階

〒530-0037 大阪府大阪市北区松ヶ枝町6-6



大阪メトロ 堺筋線・谷町線「南森町駅」から徒歩8分
JR 東西線「大阪天満宮駅」から徒歩5分



申込QRコード

単位について

東洋療法研修試験財団および大阪府鍼灸師会の研修単位 (各2単位) が取得できます。

お問い合わせ先

公益社団法人 大阪府鍼灸師会 MAIL: study@osaka-hari9.jp

〒530-0037 大阪府大阪市北区松ヶ枝町6-6 https://www.osaka-hari9.jp

(公社)大阪府鍼灸師会 主催 令和6年度2月研修事業のご案内

令和6年度2月度研修事業のお知らせです。
下記の要綱をご覧ください、会員の先生方におかれましては、
万障繰り合わせの上、ご参加お待ちしております。
詳細は、研修会案内をご参照ください。

取得単位

(公社)大阪府鍼灸師会生涯研修〈2単位〉
(公財)東洋療法研修試験財団生涯研修講座〈2単位〉

会場 大阪府鍼灸師会館 3階

受講料 会 員:1,000円 (日鍼会・大鍼師会・柔整師会・全日本鍼灸学会の会員含む)
会 員 外:2,000円
学 生:無料

※会費種別は自己申告制です。運営から種別の確認があった場合、速やかに確認できる様にご準備下さい

日 時 令和7年2月9日(日)

午前の部

10:00~12:00

霊枢勉強会
(ハイブリッド開催)

演題 ・霊枢勉強会 海論 第三十三 (アーカイブあり)

講師 篠原 孝市 先生 日本鍼灸研究会 代表

午後の部

13:30~15:00

学術講習会
(ハイブリッド開催)

演題 「医療機関における鍼灸師の役割と将来像について」
(アーカイブあり)

講師 小川 恵子 先生 広島大学病院 漢方診療センター 教授

15:15~16:40

学術講習会
(ハイブリッド開催)

演題 「鍼灸師の未来像となり得る電子カルテの活用法」
(アーカイブあり)

講師 伊藤 和憲 先生 明治国際医療大学鍼灸学部 学部長

参加申し込み方法

先着順(会館参加 30名 WEB参加 300名)

【参加申し込み方法】

QRコード・当会ホームページ manaable(マナブル) から
参加申し込み後、受講料をお振り込みにてお支払い下さい。



<https://harikyu.manaable.com/>

2月度お申込み締切 2月5日(水)

ご不明な点やお問い合わせは『大阪府鍼灸師会』まで

連絡先: E-MAIL: study@osaka-hari9.jp (研修委員会 清藤)



靈枢勉強会報告

〈講師〉日本鍼灸研究会代表 篠原 孝市 先生

〈会場〉大阪府鍼灸師会 会館3階

第44回 令和6年(2024年)11月10日(日)

〈出席者〉会場参加者 15名

○『黄帝内経靈枢』 師傳(しでん)第二十九・第一章

○その3

○34 黄帝曰。 35 便病人奈何。

34 黄帝(こうてい)曰(いわ)く、35 病人に便(べん)なること奈何(い)かん)、と。

(解説)

*35節の「病人に便(べん)なること」とは、患者にとって、もつとも望ましいこととすることである。それは具体的に何であるか、それを問うている。

○36 岐伯曰。 37 夫中熱消瘴則便寒 38 寒中之屬則便熱。

36 岐伯(きはく)曰(いわ)く、37 夫(そ)れ中熱(ちゅうねつ)消瘴(しょうたん)は則(すなわ)ち寒(かん)に便(べん)なり。38 寒中(かんちゅう)の屬(ぞく)は則(すなわ)ち熱(ねつ)に便(べん)なり。

(解説)

*ここでは「寒(かん)」と「熱」が問題となる。「中熱(ちゅうねつ)」と「寒中(かんちゅう)」という言葉が出てくる。からだの中に、これはおなかに、と言い変えても良いと思うが、そこに中熱(ちゅうねつ)消瘴(しょうたん)という状態がある。もう一つはそれと対になる寒中(かんちゅう)という状態がある。これについて張介賓(ちょうかいひん)という人はこのような注を入れている。(*文末のカッコ内に訳文)

「此(こ)の下に皆(み)な治病(ちびょう)の便(べん)なる所を言う。

【*治療にとって便なること(よろしきこと)をここで述べる】

中熱(ちゅうねつ)とは、中(なか)に熱(ねつ)有るなり。消瘴(しょうたん)とは、内熱(ないねつ)して瘴(たん)を爲(な)す。

善(よ)く飢渴(きかつ)して、日(ひ)に消瘦(しょうそう)するなり。
(*おなかがすいて食物を食べるのだが、だんだんと痩せていく)

凡(およ)そ熱(ねつ)、中(なか)に在(あ)らば、則(すなわ)ち治(ち)するに寒(かん)をよろしきとする。寒(かん)中(なか)に在(あ)れば、則(すなわ)ち治(ち)、熱(ねつ)をよろしきとする。是(こ)れ皆(み)な病情(びょうじょう)に順(したが)う所以(ゆえん)なり。」

○39 胃中熱則消穀。 40 令人懸心善飢。

39 胃中(いちゅう)熱(ねつ)すれば則(すなわ)ち穀(こく)を消(しょう)し、40 人(ひと)をして懸心(けんしん)して善(よ)く飢(う)えしむ。

(解説)

*ここで「中熱(ちゅうねつ)」について述べている。中熱(ちゅうねつ)には、胃中(いちゅう)を熱するものと、腸中(ちようちゅう)を熱するものがある。

*ここで胃中(いちゅう)を熱す、ということがどうしてわかるのかを述べている。穀(こく)を消(しょう)す、ということが、そのあらわれだと言う。食べても食べてもおなかがすく状態である。

*40節の「懸心(けんしん)」について説明する。からだの中で「心(しん)」というものが、あたかも糸で吊り下げられた状態でぶら下がっている。ゆらゆらと不安定な状態になっている。このような状態の時、胸が落ち着かない。このような状態のことを「懸心(けんしん)」と言っている。

*張介賓(ちょうかいひん)は39~40節においてこのように言っている。「消穀(しょうこく)とは、穀食(こくしょく)消(しょう)し易(やす)し。
(*食べても食べてもおなかがすく)

懸心(けんしん)とは、胃火上炎(いかじょうえん)し、心血(しんけつ)やかれしめ(*原文は、「心血被燥」)、

而(しか)して懸懸(けんけん)として寧(やす)からず。(*心持が安定しない)

胃熱(いねつ)消穀(しょうこく)す。故(ゆえ)に人(ひと)をして善(よ)く飢(う)える。」

○41 臍以上皮熱。

41 臍(へそ)より以上、皮熱(ひねつ)し、

(解説)

*臍(へそ)より上の皮膚が熱い状態を言う。

*楊上善(ようじょうぜん)という人は、このように言う。

「此(こ)れより以下、廣(ひろ)く熱中(ねちゅう)寒中(かんちゅう)の状(かたち)を言う。胃中(いちゅう)熱(ねつ)して以(もつ)て消穀(しょうこく)し、虚(きょ)して以(もつ)て飢(う)えることおおし。胃(い)は齊(へそ)の上に在(あ)り。胃中(いちゅう)の食氣(しょつき)、上熏(じょうくん)するが、故(ゆえ)に皮(ひ)熱(ねつ)す。」

*なにしろおなかに熱がある場合、酒を飲んだ時や食べ物を食べたあとに、おなかをさすったりすることがある。このような状態が「臍(へそ)より上に皮(ひ)、熱する」という状態である。

○42 腸中熱。 43 則出黄如糜。

42 腸中(ちようちゅう)熱(ねつ)すれば、43 則(すなわ)ち黄(こう)を出(いだ)すこと糜(び)の如(ごと)し。

(解説)

*張介賓(ちょうかいひん)はこのように言っている。

「臍(せい)以上とは、胃(い)と小腸(せうちよう)の分(ぶん)なり。故(ゆえ)に臍(せい)以上、皮(ひ)熱(ねつ)するものは、腸中(ちようちゅう)亦(ま)た熱(ねつ)す。

黄(こう)を出(いだ)すこと糜(び)の如(ごと)しとは、胃中(いちゅう)濕熱(しつねつ)の氣(き)を以(もつ)て、小腸(せうちよう)致(いた)す所に傳(つた)う。糜(び)は、腐爛(ふらん)なり。(云々) 」

*「臍(せい)」はへそのこと。

*「黄(こう)」は便(べん)のこと。「糜(び)」というのは、おかゆのような状態、「黄(こう)出(いだ)すこと糜(び)の如(ごと)し」とはおかゆのような軟便を指す。

○44 臍以下皮寒。

44 臍(へそ)より以下、皮寒(ひかん)し、

(解説)

*腸中(ちようちゅう)が熱した場合には、臍(へそ)以下の部分が寒(かん)する。しかし、ここで44節の「皮寒(ひかん)」は疑義がある。これは「皮熱(ひねつ)」に変えたほうが良いのではないかという注解者の意見がある。腸中(ちようちゅう)が熱しているのだから、皮(ひ)が寒(かん)する、ではなくて皮(ひ)が熱(ねつ)するを採るのが妥当だと考えている人がいる。渋江斎斎(しぶえ ちようさい)も郭霽春(かくあいしゅん)氏も、そちらを採っている。わたしも、ここは「皮(ひ)熱(ねつ)し」を採りたい。

○45 胃中寒。 46 則腹脹。 47 腸中寒。 48 則腸鳴飧泄。

45 胃中(いちゅう)寒(かん)すれば、46 則(すなわ)ち腹脹(ふくちよう)す。47 腸中(ちようちゅう)寒(かん)すれば、48 則(すなわ)ち腸鳴(ちようめい)飧泄(そんせつ)す。

(解説)

*胃中(いちゅう)が寒(かん)という状態がなぜわかるのか、それはおなかが脹るのを見ればわかる。そして、腸中(ちようちゅう)が寒(かん)した場合には、おなかが鳴って、不消化便が出ると、ここでは、そんなことを言っている。

*『靈枢』の森を歩いてみませんか。毎月休まず第二日曜午前10時から12時まで、大阪府鍼灸師会館3階です。勉強会の案内につきましては本会ホームページをご確認下さい。

次回は新しい歳、2025年 1月12日(日)、『靈枢』「腸胃(ちようい)第三十一」から始まります。どの篇からでも受講して頂きたいです。会場はライブ感がありますし、web受講は自宅でも出来ますので、どうぞ。

(靈枢のテキスト〈日本内経医学会 発行、明刊無名氏本〉は現在1冊の在庫があります。1冊1,600円です。受講申し込み時、または当日、受講受けにてお問い合わせください)

(靈枢勉強会世話人 東大阪地域 松本政己)



霊枢勉強会報告

〈講師〉日本鍼灸研究会代表 篠原 孝市 先生

〈会場〉大阪府鍼灸師会 会館3階

第45回

令和6年(2024年)12月8日(日)

〈出席者〉会場参加者 14名
WEB参加者 24名

○『黄帝内経靈樞』 決氣(けつき) 第三十

※澁江抽齋(しぶえ ちゅうさい)の『靈樞講義(れいすうこうぎ)』をテキストとしている。それによると、丙午(ひのえうま)九月初六(弘化三年(1846年)九月六日)にこの篇の講義を行ったと記されている。180年ほど前のことである。

余談ではあるが、この講義が行われた1846年の前後は、1837年 大塩平八郎の乱、1853年 アメリカ使節ペリーが浦賀に来航、そしてこの講義の歳から22年後の1868年には明治時代がはじまる。

※馬玄臺(ばげんたい・馬時【ばじ】も同一人物)はこの篇について、こんなふう言う。

「決論 一氣六名之義、故名篇。」

(※ひとつの氣は六つの名前を持っている、それを論究したものである。)

※張志聰(ちょうしそう)という人は、このように言っている。

「決、分也。決而和、故篇名「決氣」、謂氣之分判爲六、而和合爲一也。」(※ひとつのからだを氣として把握する。氣というものはひとつなのだが、その様々なはたらきにより六つの名前に分けている。しかしこの六つの名前のものは、もともとは別々のものではなく同じ氣である。)

○『黄帝内経靈樞』 決氣(けつき) 第三十・ 第二章

○01 岐伯曰。 02 兩神相搏。

01 岐伯(きはく)曰(いわ)く、 02 兩神(りょうしん)相搏(あいまじ)わりて、
(解説)

※02節の「兩神(りょうしん)相まじわりて」とは、男女の房事のことである。もっと抽象的に言うと陰の氣と陽の氣が交差しあうことによって、というふうなことであろう。

※明刊無名氏本(みんかんむめいしほん)『新刊黄帝内経靈樞』によると「02 兩神相搏」となっているが「02 兩神相搏」が正しい。

※郭霽春(かくあいしゅん)氏は「相搏(あい)つ」というのは、近づくという意味だと言う。兩神というものは陰と陽のふたつの氣を表す。つまり男女の氣のことである。それが互いに相近づいてというふうになる。

※仁和寺本『太素(たいそ)』では、「02 兩神相薄」になっている。

※楊上善(ようじょうぜん)という人は、「雌雄二靈之別、故曰兩神(りょうしん)、陰陽二神相得、故謂之薄。」

【※雌雄(しゅう)の二靈(にれい)之(こ)れを別(わか)ちて、ゆえに兩神(りょうしん)と曰(い)う。陰陽二つの神(しん)が相得て、ゆえにこれを薄(はく・びったりとくつつく)と謂(い)う。】

○03 合而成形。 04 常先身生。 05 是謂精。

03 合せて形(けい)を成(な)す。 04 常(つね)に身(み)に先(さき)立ちて生ずる、 05 是(これ)を精(せい)と謂(い)う、と。

(解説)

※03節の「形(けい)」と言うのは外形のことである。目で見ることができ、触ってわかる、そういうものを「形(けい)」と呼ぶ。

※04節の「常に身に先立ちて生ずる」とは五藏(ごぞう)などが出来る前の形(けい)、兩神が相まじわりて出来た「形(けい)」の中に根源的な氣が出来るのだと言う。これを「精(せい)」と呼ぶのだと05節で言っている。

※考えてみればひとが生まれてくるというのは、「兩神(りょうしん)相搏(あい)つ」、男女というものがなく、ひとは存在することが出来ないと気づく。

それは、考えかたによっては、とてもおもしろい。ひとは自らの意志で生きているように思うのだが、実はその存在そのものが、前の世代に依拠(いきよ)して、そこからは逃れられない。親も子もなくひとりで生きてきたと言う人もあるが、本当はそういうことを人は出来ない。常に先行するものがあり、それらが「合(あ)せて形(けい)を成す」肉体を形成するのである。

※04節の「身(み)」は、「形(けい)」と同じ。

※04~05節は、乳児として産まれて来た時に、はじめにあるのが「精(せい)」だと言っている。「精(せい)」というものは混じり氣のない、とても純粹

なもので男女の氣(き)というものを受け継いでいる。しかし乳児は「精(せい)」だけでは生きてはいけない。この後、ものを食べたり、考えたりすることで「精(せい)」を支えるものが生ずる。

※張介賓の注を読んでおく。

「兩神(りょうしん)とは陰陽(いんよう)なり。搏(はく)とは交わるなり。精(せい)とは天一(てんいつ)の水(みず)なり。凡(およ)そ陰陽(いんよう)合わせて萬物(ばんぶつ)と成る。先(ま)ず精(せい)從(よ)り始まらざる無し。」

故(ゆえ)に曰(い)う。“常に身に先立ちて生ずる。是(これ)を精(せい)と謂(い)う”と。

按(あん)ずるに本神篇(ほんじんへん)に曰(いわ)く、“兩精(りょうせい)相搏(あい)つ。之(こ)れを神(しん)と謂(い)う。”と。

而(しか)して此(こ)れに曰(いわ)く(※これとは本篇のこと)

“兩神(りょうしん)相搏(あい)つ。合わせて形(けい)を成す。常に身に先立ちて生ずる。是(これ)を精(せい)と謂(い)う”と。

蓋(けだ)し彼(かれ・ここでは本神篇を言う)は、精(せい)に由(よ)って以(も)つて神(しん)を化(か)す、を言い、

此(こ)れ(※この篇を言う)は、神(しん)由(よ)り以(も)つて精(せい)に化(か)すを言う。”

二者(にしゃ)同じからざるが若(ごと)し。正(まさ)に以(も)つて陰陽(いんよう)の互用(ごよう)を明らかにするものなり。即(すなわ)ち其(そ)の合(ごう)いつの道(みち)なり。」

※(張介賓の注の解説)

※もともと、ひとの始まりは「精(せい)」からはじまって、「精(せい)」から「精(せい)」と「神(しん)」が出来る。精(せい)は腎(じん)の藏(ぞう)を、神(しん)は心(しん)の藏(ぞう)を、次いで肝(かん)と肺(はい)が出来る。

最後に脾(ひ)が形成されるというのが、『靈樞(れいすう)』などに書かれている五藏(ごぞう)の形成状態ということになる。なぜ、精(せい)や神(しん)という言葉を使っているのだろうか。五藏(ごぞう)の名前でたとえば心(しん)の氣(き)や肝(かん)の氣(き)と言っても構わないのだが、根源的なひとのありかたを説明する時に、このような説明のしかたが良かったのだろう、そんなふう思う。

※『靈樞(れいすう)』を勉強するのに携えておくとよい三冊

- ① 劉衡如(りゅうこうじょ)著『靈樞經(校勘本)』
- ② 『靈樞經校釋(れいすうきょう・こうしゃく)』
- ③ 郭霽春(かくあいしゅん)氏の『靈樞校注語訳(れいすう・こうちゅう・ごやく)』

※『靈樞』の森を歩いてみませんか。毎月休まず第二日曜午前10時から12時まで、大阪府鍼灸師会館3階です。勉強会の案内につきましては本会ホームページをご確認下さい。

次回は2025年 2月9日(日)、『靈樞』「海論(かいろん) 第三十三」です。どの篇でも、気になるところの受講、大歓迎です。会場はライブ感がありますし、web受講は自宅でも出来ますので、どうぞ。

(靈樞のテキスト(日本内経医学会 発行、明刊無名氏本)は現在1冊の在庫があります。1冊1,600円です。受講申し込み時、または当日、受講受けにてお問い合わせください)

(靈樞勉強会世話人 東大阪地域 松本政己)



大事なお知らせ

拝啓 厳寒の候、皆様にはお健やかに過ごしのことと存じます。
平素は学術講習会にご参加いただき誠に感謝しております。

令和6年度の学術講習会も第5回をもちまして、今年度の研修も終了となります（霊枢勉強会は3月で終了）。
次年度から、システム変更に伴い、講座ごとに受講料を分けることになりました。
突然のお知らせで申し訳ありませんが、受講料を明確にするための措置です。

またその他の理由として、

- 1 昨今、物価上昇、コスト高によるハイブリット運営に伴い、経費の捻出のため
- 2 霊枢、研修の生涯研修単位の申請管理、受講履歴を明確にするため

つきましては、令和7年度より霊枢勉強会と学術講習会の同一日受講料の分割にご理解していただきたく、
何とぞよろしくお願い申し上げます。

公益社団法人 大阪府鍼灸師会 理事
研修会委員長 清藤 直人



公益社団法人 大阪府鍼灸師会 主要行事予定表（1月10日現在）

1. 令和7年2月予定

日	曜日	主要行事	場 所	開催時間
6	木	生保労災 審査・相談会	会館2階	15:00～
9	日	霊枢・学術研修会	会館3階+WEB配信	10:00～
24	祝月	大阪マラソン2025	大阪城公園	9:00～

2. 令和7年3月予定

日	曜日	主要行事	場 所	開催時間
6	木	生保労災 審査・相談会	会館2階	15:00～
9	日	霊枢勉強会	会館3階+WEB配信	10:00～
9	日	高槻クロスカントリー大会	高槻市立萩谷総合公園	9:30～
13	木	第7回正副会長会議	会館2階	20:00～
16	日	第7回理事会	会館4階	10:00～
16	日	第3回地域代表者連絡会	会館4階	15:30～

3. 令和7年4月予定（仮）

日	曜日	主要行事	場 所	開催時間
6	日	生保労災 審査・相談会	会館2階	15:00～
7	月	会費引き落とし日		15:00～
10	木	第1回正副会長会議	会館2階	20:00～
12	土	監査会	会館2階	18:00～
13	日	第1回理事会	会館4階	10:00～
13	日	第1回地域代表者連絡会	会館4階	15:30～
13	日	霊枢勉強会	会館3階+WEB配信	10:00～

パート
急募

鍼灸師、柔道整復師、
あん摩マッサージ指圧師

仕事内容 施術を中心とした鍼灸師業務
マッサージ施術、機能訓練業務
※雇用期間の定め1年（原則更新）更新上限なし

給与（時給） ①午後 2000円
②午前 1700円
※試用期間3か月 1500円

時間 ①15:00～17:00 又は17:30
火、金曜日の週2日勤務
②8:30～12:00 月～土曜日
①午後勤務は必ず②午前勤務は要相談
★残業なし

休日 日、祝休み、お盆、年末年始
※水、木、土曜日の午後は休診

待遇 交通費支給（上限20000円まで）

お気軽にお電話下さい。応募、お問い合わせはこちら

医療法人善医会 玉田整形外科

大阪市東住吉区湯里6-14-14 ☎ 06-6702-7887



いっしょに、いこう！
大阪・関西万博